

令和8年度京都市動物愛護推進会議 摘録

1 開催日時

令和8年8月20日（木） 午後2時～午後3時30分

2 開催場所

京都市役所分庁舎4階 第1会議室

3 出席者（敬称略）

<座長>

村田 裕史 （公益社団法人京都市獣医師会 会長）

<委員>

上村 享 （近畿ケネル協同組合 理事）

小芦 英知 （公益財団法人関西盲導犬協会 所長 兼 理事）

多田 雅純 （京都市保健協議会連合会 副会長）

中村 仁 （公益社団法人京都市獣医師会 副会長）

西谷 景子 （市民公募委員）

福島 郁子 （京都市地域女性連合会）

松岡 幸子 （NPO法人アンビシャス 理事長）

松本 恵生 （京都市地域包括支援センター・在宅介護支援センター連絡協議会 副会長）

村田 裕史 （公益社団法人京都市獣医師会 会長）

山梨 裕美 （京都市動物園 生き物・学び・研究センター主席 研究員 兼 種の保存展示課担当係長）

<事務局>

八代 康弘 （健康長寿のまち・京都推進担当局長）

南 秀明 （医療衛生センター長）

伊東 大輔 （動物愛護センター所長）

大原 隆 （医療衛生企画課生活衛生担当課長）

塩田 幸弘 （医療衛生企画課動物愛護係長）

4 次第

(1) 開会

(2) 挨拶

(3) 委員紹介・議長選出

(4) 議題（報告事項）

- ・第二期京都市動物愛護行動計画に基づく令和7年度の実績
- ・京都市動物愛護推進部会における協議状況

5 議事録

(1) 議題1「第二期京都市動物愛護推進行動計画に基づく令和7年度の実績」について事務局から資料説明

【質疑応答】

○委員

犬猫の殺処分数の大幅な減少について、京都市が、動物保護団体等を頼らずとも取組が達成できたことは非常に評価できます。今後は、飼い主に対する適正飼養、終生飼養の啓発について、よりわかりやすく、飼い主の理解を深めていくための情報発信を行う必要があると考えます。具体的な例として、動物愛護センターでのしつけ教室の開催、犬のトイレマナーに関する啓発、子供たちへの動物愛護教材の見直しを提案します。

併せて、先日の熊本地震でも課題とされた、夏場のペットとの避難に関して、屋外にケージ等を並べてペットのみを飼育することは現実的でないと考えます。ペットと避難した飼い主の多くは車中泊を選択している実情を踏まえ、車内での過ごし方の注意点や、必要な準備等、具体的な方法について冊子等にも掲載するほか、防災訓練等で実物展示を行う等、検討していただきたい。併せて、避難所となる学校施設へは、教室等でペットと同室避難を行うことは難しいかもしれないため、避難者が車中泊を選択できるよう、グラウンドの開放が可能か働きかけてみてはどうでしょうか。

また、LINE スタンプに関しては、販売実績額より運用コストが大きくなっているようであれば、廃止も検討すべきと考えます。

○委員

今後の目標として、動物愛護センターでの収容数や殺処分数が大幅に減少したことを踏まえ、「殺処分ゼロ」という数字にとらわれるのではなく、次のフェーズへ進めていく必要があると考えます。具体的には、飼い主等に対して規制を強化するというよりも、京都動物愛護憲章に掲げる「人と動物の共生」の実現に向け、人と動物がそれぞれ楽しく暮らせるよう、様々な方面から支えあうような施策が理想ではないでしょうか。

また、動物愛護センターでのしつけ教室については、動物を介した市民交流の促進という面以外に、ボランティアの活躍という面でも非常に良いと思います。しつけや飼い方の相談に関しては、専門的な知識をもつ獣医師の判断を必要とすることがあると思います。獣医師会としても協力可能かと思われるため、ぜひ前向きに検討いただきたいです。

○委員

盲導犬の訓練においては、トイレマナーを確実なものにすることが求められますが、ケースによっては苦勞することがあります。外出先で排泄の失敗をさせないよう、事前に排泄させることが基本となりますが、そのためには、ユーザー（飼い主）の方がいかにその犬と向き合い、意志をもって取り組むかが重要です。また、盲導犬の排泄には、マナーベルトと袋を用いており、基本的に地面等を汚すことはありません。そうした方法について普及啓発していくことも一つかもしれません。

○事務局

皆様からいただいた御提案・御意見を踏まえ、今後の取組について検討を進めてまいります。

(2) 議題2「京都市動物愛護推進部会の協議状況」について事務局から資料説明

【質疑応答】

○委員

動物愛護フェスティバルの開催時期に関して、9月はまだ残暑が厳しく、ペットを同伴するのに不向きと考えます。今年は開催場所が変更され、ペットの同伴がしやすくなったと思いますが、時期についても引き続き検討いただきたいです。また、ペットと防災をテーマに、車中泊やテント等の具体的な避難の疑似体験ができるイベントの開催についても、併せて検討いただきたいです。

○事務局

いただいた御意見を踏まえ、今年度は開催場所をよりペットの同伴をしやすい会場に変更いたしました。開催時期についても検討いたしましたが、気候の良い時期は既に別のイベントが予定されており、今回は変更ができませんでした。引き続き、時期については検討を進めてまいります。

また、防災に関しても、区役所等と連携し、引き続き啓発を行ってまいります。

(3) その他 質問、意見等

【質疑応答】

○委員

京都府医師会が開催する府民公開講座に関する情報提供です。例年、人生の最期をテーマとして講座をされており、今年は「高齢者とペット」をテーマとして開催が予定されています。外部講師として杉本彩さんをお招きし、11月後半頃に開催予定と聞いています。

○委員

防災に関して、先日の熊本地震の際、SNS上では地震発生直後から盛んにペットのレスキューや迷子等の情報が発出されていました。有事の際は特に情報が混乱しますので、行政機関がいち早く情報集約や発信を行えるよう努力していただきたいです。特に、動物愛護センターの愛称があまり一般に浸透しておらず、民間団体なのか迷う場面がありましたので、SNS等で発信を行う際は、行政機関であることを明記し、市民が迷わないよう運用していただきたいと考えます。

ある動物愛護センターでは、ペットが迷子になった際、飼い主自らがペットの写真等の情報をフォーマットから送信し、センターホームページに掲載されるようになっていました。京都動物愛護センターにおいてもぜひ参考としていただき、有事の際以外でも、迷子発生時の手続きを周知してみてもはいかがでしょうか。

○委員

迷子のペット情報を飼い主自らが登録を行う、という取組は非常に良いように思い

ます。また、行政機関であることの明示が必要との意見に関して、京都では名誉センター長である杉本彩さんの情報発信力が高いためか、杉本彩さんが運営されている団体と京都動物愛護センターを一般の方が混同されている場合があるように見受けられます。

○委員

名誉センター長の活動は、ボランティアなのでしょうか。

○事務局

本市の動物愛護事業に関しては、名誉センター長、委員の皆様ならびにボランティアの皆様をはじめ、様々な方に支えていただいていると認識しております。引き続き、人と動物の共生に向けて、本日皆様からいただいた御提案・御意見を踏まえ、今後の取組について検討を進めてまいります。最後に、共生という観点から、水族館や動物園などでも独自の取組をされていると思いますが、紹介いただけますでしょうか。

○委員

動物園では、犬猫以外の様々な動物を飼育しているため、取組については多岐にわたります。最近では、動物福祉の観点から、動物と直接関わることのできるプログラム以外にも講演形式など様々なイベントを行っていますが、参加者の層に偏りが生じていることを課題と思っています。特に、子供たちへの啓発は園でも大切だと考えているため、犬猫等の身近な動物を手掛かりとして、動物の気持ちを考えるというプログラムも良いのかもしれません。

○委員

最後に、今回の動物愛護フェスティバルに関して、開催時期と屋外であるという点を考慮し、出展を見送らせていただいたことをお詫びいたします。既に事務局から回答がありましたが、引き続き時期等含め、検討いただきたいと思います。

○事務局

皆様からいただいた御提案・御意見を踏まえ、今後の取組について引き続き検討を進めてまいります。

6 閉会

以上